

特集記事

-Special Program-

PT(理学療法士)のための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催しました！

なぜ理学療法士なのか？

簡単に説明すると理学療法士(Physical Therapist、以下PTという)とは、ケガや病気などによる身体障害に対して動作改善を図りながら日常生活の自立をサポートするリハビリの先生です。また、スポーツ界ではその身体機能の専門知識を活かしてトレーナーとして、競技団体やスポーツチームのコンディショニング指導をされることもあります。よって高い競技力の領域に関わる人が多いという印象があります。

しかし私たちがPTとの連携で求めるところはそれだけでなく、むしろスポーツ導入時の支援が中心となります。その訳は障がいのある方々では競技力の高い領域で活動するのはほんの一握りであり、スポーツ自体に全く参加できていない方が圧倒的に多いという現状によります。

さて、例えば、あなたに脳血管障害による右半身麻痺の知人がいたとしましょう。その方と一緒に運動をしたいと考えた場合、「屈伸運動」をどのようにサポートしますか。ここでは、屈伸運動と同効果の運動強度確保と転倒リスクの回避がポイントになりますが、こんなとき、リハビリの先生であるPTがそばにいたらどんなに心強いことでしょう。

当協会ではリスク回避と参加者の満足度アップのためにはPT(OTも同様)との連携は重要であり、積極的なスポーツ導入事業への展開につながると考えています。

短縮日程+初級資格免除？

日本パラスポーツ協会(以下、JPSAという)公認の障がい者スポーツ指導員資格は初級・中級・上級とステップアップ。通常は、初級が21時間のカリキュラム(3日~4日間)で取得できる。中級は、初級取得後2年を経過し、80時間の活動実績を持って受講資格を得る。中級のカリキュラムは通常57時間(8日~10日間)であるが、すでに専門知識を有するPTを対象とした講習会は、その約半分の29.5時間。さらに初級資格の有無を問わず、飛び級的に中級から受講できるのである。これはこれから資格取得を検討するPTにとっても魅力的である。



▲令和3年12月11日(土)~12日(日)、12月25日(土)~26日(日)の4日間に渡り、ふれあいランド岩手を会場に開催した。

コロナ禍の影響~全国で唯一の開催

当協会では本講習会はJPSAの委託事業として4回目の開催となった。コロナ禍の影響により、開催は岩手県のみとのことであった。その影響からか今回の受講者14名の内訳を見ると北海道1名、青森2名、岩手2名、秋田2名、宮城1名、福島1名、福井1名、東京1名、滋賀1名、大阪1名、岡山1名であった。岩手から2名というのは寂しい気もするが、クラスター発生の影響があったと思う。それでもPTは病院や老人施設に所属している方が多い中でよくぞこれだけ集まったものだと思う。これだけパラスポーツへの関心度が高まっているといえるのではないかな。

ただし資格取得したからといってPTとの連携が始まるわけではない。これをきっかけに理学療法士会との連携を図りながら、スポーツ未実施の方々に積極的にアプローチしていきたいと考える。

CONTENS



■特集記事

- P1/PTのための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催！
- 事業報告(11月~3月)
- P2/第4回卓球バレー交流会/ポッチャ体験教室 他
- P3/第3回岩手県ユニバーサル麻雀交流大会 他
- P4/お座敷ポッチャ?/ユニバーサルスポーツサポーター講習 他
- P5/第2回卓球バレースキルアップクリニック 他
- P6/令和3年度中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 他
- P7/障がい者スポーツ特別研修会2022
- P8/いわてパラアスリート発掘・育成事業 他
- P9/岡崎建設Owlsバレーボール教室 他
- P10/障がい者スキー交流会2022 他
- P11/ゲートボール交流大会 in 宮古 他
- 会員紹介(P12)

ホームページについて

開催要項、申込書データのダウンロードや詳細情報は当協会のホームページよりご覧ください。

URL → <https://www.iwate-adaptive.or.jp/>



お問合せ先：一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会
岩手県卓球バレー協会
TEL 019-637-5055 / FAX 019-637-7626
E-mail : info@iwate-adaptive.or.jp

一関市&気仙沼市障がい者スポーツ交流事業 第4回卓球バレー交流会を開催！

◆期日：令和3年11月3日（水祝）

◆会場：本吉保健福祉センター「いこい」（気仙沼市）

◆レポート：この事業は気仙沼市と一関市の障がい者スポーツ協会の交流と活動の活性化を目的に卓球バレー交流事業として2018年にスタート。今回で4度目の開催となった。当初は9月初旬開催を予定していたが、コロナ禍により本日の開催となった。依然としてコロナ禍が収まらない状況であり、会場借用も特別にご配慮いただく形で何とか実施。気仙沼市の皆さん、そして気仙沼チームの三浦由喜さんに感謝したい。当日は、気仙沼市から2チーム、一関市3チーム、大船渡市1チームの6チームが参加して総当たり戦により順位を決定した。

審判員もなかなか集まらない状況であったが、宮城卓球バレー協会の泉会長と山内事務局長はじめ6名の皆さんにご参加いただき大変助かった。また、岩手協会、宮城協会に所属する審判が主審・副審を担当しあうなど審判の技術交流が出来たことも大きな成果であった。



▲各チームともコロナ禍によりなかなか活動できなかったようで久しぶりの試合機会となりました！審判にとっても実戦でのジャッジの機会は重要です。

『ボッチャ体験教室』を開催！

◆期日：令和3年11月4日（木）

◆会場：岩手県勤労身体障がい者体育館（パラリーナ）

◆レポート：東京オリパラ大会開催をきっかけにボッチャに対する人気が高まっています。今回は盛岡市身体障害者協議会からの依頼があり、ボッチャ体験教室を開催しました。体験といってもほとんどが経験者です。また、滝沢市身障協の皆さんも参加して一緒にゲームを楽しみました。各市町村の身障協もコロナ禍により活動が停滞気味と伺いました。また高齢化によりゲートボールやグラウンドゴルフに参加できない会員でもボッチャなら参加できると思われれます。今後はこのようなニーズや各市町村同士の交流にも活用いただければと思います。



『グラウンドゴルフ花巻交流大会』を開催！

◆期日：令和3年11月9日（火）

◆会場：日居城野運動公園（奥州市）

◆レポート：コロナ禍により開催日を9月から11月に変更して実施した。しかし、11月の肌寒さに加えて当日は雨の予報だったため天気予報が眺めながら運営となった。昼すぎには強烈な雨雲が近づいてくる予報のため時間を前倒しで行った。参加者は個人戦に金ヶ崎、北上市、一関市、花巻市から34名、団体戦には6チームが参加して2ホール合計打数により順位を競った。また、会場設営とスコア記録など、花巻市グラウンド・ゴルフ協会の皆さんに協力いただき、一緒にプレーに参加していただいた。何とか雨雲を避けながらプレーを完了して、表彰式は行わずに結果のみお知らせして帰路についていただいた。解散し始めると同時に強い雨粒が落ちてきた。何とか終了できてよかった。順位は以下のとおり。



男性・個人の部（2ゲーム合計）

第1位 高橋 孝明（きたかみ）／37点
第2位 大和 伸吉（ささどりや）／39点
第3位 皆川 富雄（いちのせき）／42点

女性・個人の部（2ゲーム合計）

第1位 柳沢 キエ（きたかみ）／44点
第2位 富松 ハヤ（かねがさき）／46点
第3位 葛尾 文子（花巻）／47点

団体の部（上位5名の合計点数）

第1位 いちのせき／242点
第2位 かねがさき／256点
第3位 きたかみ／259点

『車いすカーリング研修会』を開催！

◆期日：令和3年11月12日（金）

◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：結成2年目となった車いすカーリングチーム「SHINE（シャイン）」が、盛岡リーグでの初勝利を目指して奮闘中です。一人一人の投球技術は上がっていますが、なかなか試合では勝てない状況です。技術だけではなく、チームとしての戦術や戦略。相手チームとの駆け引きを組み合わせる必要があります。今日は斎藤コーチの指導の下に基本戦術やケースバイケースの戦略を学びました。



『第3回岩手県ユニバーサル麻雀交流大会』を開催

◆期日：令和3年11月14日（日）

会場：ふれあいランド岩手（オンライン参加のみ）

レポート：当協会の活動理念は「Sports For All」です。しかし、すべての人（All）がスポーツに参加できるわけではなく、国の調査では過去1年間もスポーツ活動に参加していない方が50%もいるというデータもあります。私たちには、この現実と向き合うことが求められている気がしています。すべての方に届けることは難しいかもしれませんが、できることはたくさんあるはずです。その1つの可能性としてeスポーツでの交流事業を実施しています。今回の結果は以下のとおりです。

第1位：小水神（こすず）さん、第2位：こすも 1934さん、第3位：チャンチャンタさんです。小水神さんは初優勝でした。



『宮古・田老ゲートボール交流大会』を開催！

◆期日：令和3年11月17日（水）～18日（木）◆会場：グリーンピア三陸みやこ（宮古市）

◆レポート：従来、宮古市田老地区への移動時間は車で3時間近くかかりましたが、宮古道や釜石道が整備され、盛岡からは1時間半ほど。その他の地域からでもかなり移動時間短縮されています。さて、身障者のゲートボール選手は一時期に比べてかなり減少しています。この傾向は障がいの有無に関わらないようで全体的に競技者やチーム数が減少しているようです。ただゲートボールはやってみると奥が深く戦術・戦略面のかけひきはかなり面白いようです。また、スパーク時の打撃など身障者ルールが適用され、最近では障がいの有無に関わらず一緒に楽しむ機会を広げています。

さて、2日間に渡る開催ですので遠方参加チームはグリーンピアに宿泊。岩手応援割などで格安料金でした。またホテルの売りである豪華な夕食も建材で今話題の「ピン井」恒例の「アワビの踊り焼き」など品数とボリュームともに大満足でした。さてさて、会場のパシフィックアリーナは屋内にも関わらずゲートボールコートが8面を有します。ゲートボールの他にもテニスやフットサル、グラウンドゴルフにも利用されています。今回は7チームの総当たり戦で順位を競いました。

結果は次のとおりです。第1位：花巻いしどりや／6勝0敗、第2位：にいさと／3勝3敗、第3位：駒形／3勝3敗。花巻いしどりやが全勝優勝！3勝3敗に4チームが並ぶ激戦となりました。



『第2回岩手県パラアーチェリー記録会&体験会』を開催！

◆期日：令和3年11月28日（日）

◆会場：岩手県勤労身体障がい者体育館（パラリーナ）

◆レポート：この記録会は、日頃よりアーチェリーに取組む方の実践形式での記録会と交流を目的に開催。20名の選手が参加してそれぞれのカテゴリー別に順位を競い合いました。また、午後からは体験会を開催して普及活動を行いました。初めて体験する車いす利用者にとって的を射抜く爽快感は満足できるものだったようです。ご協力いただいた盛岡市アーチェリー協会、岩手県アーチェリー協会、岩手県身障者アーチェリー協会の皆さん、ありがとうございました。



県内初の地域主催大会 『久慈大川目卓球バレー大会』が開催されました！

◆期日：令和3年11月28日（日）

◆会場：久慈市大川目市民センター（久慈市）

◆レポート：久慈市では「あまちゃんカップ」が開催され、JICA研修生との国際交流の場となるなど卓球バレーが盛んな地域です。今回は、久慈市の行政区レベルでの大会ということで県内でも初めての取組みではないかと思えます。当日は、6チームが参加して総当たり戦で交流試合を行いました。審判は久慈地域卓球バレー協会の新里さん、類家さん、そして岩手県体育協会の板垣さんが担当。3コート使用し、1セット11点の2セットのみの試合で各チーム5試合とたっぷり楽しみました。このような地域密着型の大会をどんどん実施する行政区が増えるとスポーツの参加率の向上にもつながります。是非、継続して大会が開催されるよう取組みたいと思います。



NPO 法人い〜はと〜バススポーツクラブ主催 『お座敷ボッチャ?』を楽しもう!

- ◆期日：令和3年11月29日(月)
- ◆会場：仁王地区老人福祉センター(盛岡市)
- ◆レポート：この事業は令和3年度盛岡市健康づくり習慣化推進業務としてNPO法人い〜はと〜バススポーツクラブが運営を担当。当協会はボッチャの講師として参加した。パラスポーツを活用し地域交流を図るモデルケースであり、多くの総合型地域スポーツクラブで取り入れていただきたいと思う。また、体育館でなくても楽しむことができることもメリットである。今回は和室を利用して「お座敷ボッチャ」として楽しんでいただいた。



▲空調のあるお部屋であれば年間通して快適です!

滝沢市社会福祉協議会主催 『ユニバーサルスポーツサポーター養成講習会』

- ◆期日：令和3年12月2日(木) ◆会場：ビッグルーフ滝沢(滝沢市)
- ◆レポート：滝沢市社会福祉協議会では地域交流のツールとして積極的にユニバーサルスポーツを取り入れている。中でもボッチャは人気があり、障がい者団体、老人クラブなどからも体験希望が多い。しかし、指導者が少ないということで本日の講習会の開催となった。本日の内容は、ルール説明の後、3チームに分かれて簡易大会を行った。試合のないチームは審判を担当していただいた。ボッチャのルールを覚え、楽しさを感じるには効果的な方法である。今後も地域、学校、団体等をつなぐツールとしてボッチャを活用していただきたいと思う。



卓球バレー三陸交流 『第2回大船渡さんまカップ』を開催!

- ◆期日：令和3年12月4日(土)
- ◆会場：大船渡市民体育館(大船渡市)
- ◆レポート：昨年に引き続き、2度目の開催となった。今年は念願のメインアリーナが会場である。卓球バレー大会は県内では盛岡や三陸沿岸を中心に開催している。この大会は、参加者の卓球バレーの活動実績に応じて参加クラスを分けていることが大きな特徴である。これにより、特に卓球バレーを始めてまもないチームも安心して楽しむことができる。参加クラスは主に3つで地域の特徴を表す物産品等を名称にすることが多く、ここ大船渡さんまカップでは、競技性の高い「さんまクラス」、勝ち負けより楽しむことが優先の「つばきクラス」、卓球バレー未経験者でも参加できる「ころ柿クラス」として参加を募った。参加は各クラス合わせて16チームであった。参加チーム数にバラつきはあるが、総当たり戦や小グループでのリーグ戦、トーナメント戦を組み合わせて、各チーム4試合~5試合できるようにしている。今回は岩手に卓球バレーを始めて紹介していただいた大分県の堀川裕さんも参加していただいた。そして運営協力をいただいた大船渡市スポーツ推進委員協議会や地元老人クラブ等、選手やスタッフを兼任しながらご協力いただいた。



▲①念願のメインアリーナでの開催。6コートで実施した、②主審を務めるのは大分の堀川さんです!キレが違いますね!③毎度参加いただいているMY大船渡チーム。MYは明治(Meiji)安田(Yasuda)生命の頭文字です!④大船渡市グラウンドゴルフ協会チーム(左)も参戦!

地域の活動を応援します! ~山田町身障協主催 『卓球バレー練習会』

- ◆期日：令和3年12月9日(木) ◆会場：山田町生活改善センター
- ◆レポート：山田町といえば元身障協会長の佐藤多智男さんを思い出す。いまだ亡くなられたことが信じられないという方も多いのではないかと。それだけ影響力が大きい存在であった。いつも笑顔で誰にでも気さくに話しかけてくれる温かな人柄。多くのイベントに自分が参加するだけでなく、地元の方々のために車を出し送迎役まで務めていただいていた。多智男さんが亡くなり、その後の活動が心配されたが奥さまの優子さんが立ち上がり、送迎やイベント企画に尽力いただいている。本当にありがたい。今日はこの1つの活動である卓球バレー練習会に参加してきた。ルールに不安のあるまま練習していたとのことであった。今回の訪問が少しでもお役に立てれば幸いである。なお、毎月第2木曜日が練習日とのことである。都合のつく方は是非ご参加ください!



▲卓球台は閉校となった学校からゆずり受けた。もう1台あるので、今後は老人クラブとの合同開催も!

日本卓球バレー連盟東ブロック主催 『第2回卓球バレースキルアップクリニック』

◆期日：令和3年12月18日（土）◆会場：仙台市生涯学習センター
◆レポート：日本卓球バレー連盟東ブロックが主催する事業で2回目の開催となった。なお、今回は日本卓球バレー連盟から長谷川理事長に京都より遠路ご参加いただいた。講義は第1部として「コンプライアンスの必要性」と題して荘子ブロック長が担当。今後の組織整備において会員間でしっかりと共有されるべき内容であった。第2部は「コロナ禍における大会運営」として三浦が担当した。主に会場レイアウトや大会時の感染症対策と電子ホイッスルを使用した審判方法を説明させていただいた。そして夜は久しぶりの忘年会でした！



岩手県勤労身体障がい者体育館主催 『パラリーナ杯・卓球バレー交流大会』

◆期日：令和3年12月19日（日）◆会場：パラリーナ（盛岡市）
◆レポート：コロナ禍により従来のパラリーナ杯ではなく、規模を縮小して行った。それでも参加が6チームあった。うち1チームは北上市スポーツ推進委員の皆さんを中心とする合同チームであった。6チームの参加だったので、クラス分けは行わず、3コートを活用して6チームの総当たり戦を行った。コロナ禍において練習不足のチームもたつぱりと試合を楽しむことができたように思う。なお、今回は1セット11点の2セットのみ行い、総当たりの勝点により順位を競う形とした。



令和3年度岩泉ホールディングススポーツ選手支援事業・認定授与式

◆期日：令和3年12月23日（木）◆会場：岩手県体育協会会館（盛岡市）
◆レポート：今年度も岩泉ホールディングス様より5名のパラアスリートが支援をいただくこととなった。企業の特徴を活かし、選手に岩泉ヨーグルトを定期的に届け、体調管理とともに競技力向上につなげようという取り組みである。岩泉ヨーグルトファンにとっては少しうらやましい気もする。また、故郷を離れ活躍する選手も支援対象となっており、地元のヨーグルトに故郷を思い出す機会にもなることでしょう。県内外のアスリートの皆さんの活躍をお祈りしましょう！岩泉ホールディングス様、本当にありがとうございます！



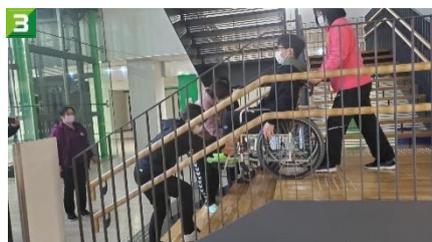
▲中央は岩泉 HD 代表取締役社長の山下氏（左側）と当協会の藤井会長（右側）

沿岸地区『初級障がい者スポーツ指導員養成講習会』を開催！

◆期日：令和4年1月8日（月）～10日（月）
◆会場：陸前高田市総合交流センター（夢アリーナたかた）
◆レポート：本講習会は公益財団法人日本パラスポーツ協会の公認障がい者スポーツ指導員の資格を取得できる講習会で21時間以上の基準カリキュラムで実施する。本県では昨年度より、県央地区と沿岸地区で2回実施。地域における指導者養成は重点課題となっており、当協会としても継続的に取り組んでいきたい。しかし、何をやるにもコロナ禍が付きまとう形となっており、期待された受講者数には満たない状況であった。それでも、大船渡や陸前高田等のスポーツ関係者を含め、7名の受講者に参加していただいた。会場となった夢アリーナたかたは、メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニング室、プール、そして広～い駐車場を有する大規模施設である。講習期間中もそれほど混みあうことがなく、この施設が盛岡近辺にあったらどんなに良いだろう。



さて、今回も素晴らしい講師陣により、充実した内容の講習会となった。受講者の皆さんにはそれぞれの所属において障がい者スポーツに関する事業展開を期待したいところである。まずは、こちらで企画する様々な事業への参加協力をお願いしたい。講師の皆様、受講者の皆さん、3日間ありがとうございました！



▲①講習会場からは市内の街並みと広田湾が眺められる。まだまだ復興段階といった印象である。②講習会ではお馴染み『ごめん・ドンマイゲーム』で盛り上がります！③施設の階段を利用したの車いす介助特別講習を実施！勉強になります！④今回受講した7名の精鋭たち！

令和3年度中級障がい者スポーツ指導員養成講習会を開催！

◆期日：以下8日間

令和4年1月15日（土）、16日（日）、22日（土）、23日（日）

令和4年3月19日（土）、20日（日）、26日（土）、27日（日）

◆会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

◆レポート：本講習会は初級障がい者スポーツ指導員の有資格者で2年間で80時間の活動実績を有する者が受講対象である。基準カリキュラムは57時間以上で通常は8日間から10日間の超ハードな講習会である。この講習会を毎年、県主催事業として岩手県のみであるため、青森や秋田など県外からも受講者も多く、情報交換の場ともなっている。東北ブロックの中級取得率が他のブロックに比べて高く、少しは貢献しているのではないかと思います。いずれ8日間のハードスケジュールを共にする受講者たちであり、講習会終了後も交流が続くケースも多いようである。中級取得者が各県においてリーダー的な役割を担うことも多いのが特徴でもある。今後も受講者の皆様の活躍を期待したいと思う。



▲①8日間の苦業？を共にした受講者の皆さん、お疲れさまでした！②陸上競技では全スポ特有種目のスラロームを体験。車いすでバックは難しい！③スウェーデン製のサムスペルという遊具体験。これは面白い！④トレーニング方法ではストレッチングなどの実技体験も実施した。

2日間に渡り開催～『日本ボッチャ協会公認サポーター養成講習会』

◆期日：以下のとおり

令和4年1月28日（金）18:30～20:30 / 令和4年1月29日（土）14:00～16:00

◆会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

◆レポート：東京パラリンピックでの日本選手団の活躍でさらに注目度が上がったボッチャ。小学校や地域団体からの体験希望が急増している。これと同様に指導者向けの講習希望も増えている。今回のボッチャの日本代表チームで監督を務めた村上光輝さんの日程が確保できたため、日本ボッチャ協会公認サポーター資格を取得できる講習会を企画させていただいた。かなり急な企画となったが、ボッチャの活用方法に新たな気づきのある充実した内容となった。



▲①初日は平日ということもあり、夜間講習とした。②ボッチャの導入例として行ったボールの積み上げゲーム。子ども大喜びのプログラムです。③講習会では4m×4m程度のミニコートを使用する。これによりプレーの難易度を下がり、ゲーム性が高まります。ボッチャの魅力を実感！

『令和3年度盛岡市スポーツ推進員研修会』に参加しました！

◆期日：令和4年1月29日（土）9:30～12:30

◆会場：ふれあいランド岩手（盛岡市）

◆レポート：盛岡市スポーツ推進員協議会が主催する研修会が行われた。盛岡市では年度末にボッチャ交流事業（市老連主催）を計画しており、盛岡市のスポーツ推進員が中心となり大会運営を担う体制作りを進めたいと考えているとのこと。そこで、今回の研修はボッチャの大会運営方法を中心に行うこととした。また、盛岡市のスポーツボランティア「スポーツパル」とのスポーツパル交流会も併せて行うこととなった。

講師は、ボッチャ日本代表監督の村上光輝さんが務めた。村上さんは日頃よりボッチャが地域で広がるための仕組みづくりにも関わっている。今回はボッチャの実技指導に加えて、企画や運営方法を含めてお話いただいた。研修の前半はスポーツ推進員に対してボッチャのコート作りと導入方法、ゲームの進め方等をレクチャーしていただいた。後半のスポーツパル交流会では、スポーツ推進員が審判を務め実施した。



◆期日：令和4年1月30日（日）◆会場：ふれあいランド岩手

◆レポート：今回のテーマでの最重要ポイントは、『障害のある人もない人も、支え手側と受け手側に分かれることなく共に支え合う』である。これまで当協会では地域支援を目的に様々な事業を展開し、その効果を実感している。しかし、その後に地域が主体的に自主的に事業を展開しているかを問われると良い答えができない。なぜかを考えた時に私たちが実施している支援のあり方に問題があったのではないかと考えた。簡単に言うと我々が努力してきた「手厚い支援」が地域にとっては「やってもらう」ということになり、自らが行動を起こすことへの支援につながらないという課題がある。この課題を解決するためには行政や関係団体との連携だけではなく、障がい当事者自らが行動することを促す取り組みが必要となる。今回、出演していただいた講師の皆様からもたくさん貴重な情報をいただくことができた。今後はこれまで以上に当事者リーダー育成を含め、地域と同じ目線で継続的に持続的な取り組みにつなげることをゴールしながら取り組む必要があると感じた。

◆出演者：以下のとおり



話題提供①「障がい者スポーツ普及における課題・事例紹介」

講師①&ファシリテーター／橋本 大佑 氏（一般社団法人コ・イノベーション研究所代表理事）

筑波大学卒業後、ドイツに渡り、車いすスポーツを通じた障がい児・者への導入指導方法について学ぶ。2009年に帰国後、国内において障がい者スポーツの導入における指導の開発・普及に取り組む。ドイツで師事したホルスト・ストローケンデル先生の理念を実践するために法人設立。障がい者スポーツだけではなく、様々な社会課題を分析し、その解決方法を研究・開発。現在は、企業研修等でも講演依頼が多い。本日は、このパネルディスカッションのファシリテーターを務める。



話題提供②「障がい当事者団体が運営するスポーツを活用した自助グループについて」

講師②／福田 彰 氏（戸山土曜会 代表）

脳内出血による右半身麻痺・言語障害。元は電気工業の経営を行っていたが、平成15年に脳内出血で現在の障害を受傷。リハビリ後、同じ脳血管障害者の社会復帰支援を行うことを目的に、「戸山土曜会」を設立。現在は、約100名が登録する。東京都理学療法士協会との共同で、スポーツを活用した支援事業を行い、昨年度は登録者から3名が就労復帰している。東京都北区内スポーツ施設等バリアフリー化検討委員。障がい者スポーツ指導員（中級）。



基調講演①「文化・芸術分野における障がい者リーダー育成/東京2020パラリンピック大会開会式」

講師③／森田 かずよ 氏

先天性の障害（二分脊椎症・先天性奇形・側湾症）を持って生まれる。18歳より表現の世界へ入り、ある時は義足を身につけ、ある時は車椅子に乗りながら、舞台上に立つ。障がいのある身体で、自分らしく何が表現できるのか、何を伝えることができるのか。自分の身体と向き合い、表現の可能性を日々楽しく考えながら、義足の俳優&ダンサーとして活動している。大学卒業後、奈良県の劇団を経て現在フリーで活動。ヨコハマ・パトリエナーレ、SLOW MOVEMENT、庭劇団ペニノなど多数の公演やイベントに出演。東京2020パラリンピック開会式に出演。



基調講演②「障がい者の自立運動とスポーツ・文化活動」

講師④／中西 由起子 氏（アジア・ディスアビリティ・インスティテュート代表/DPI 日本会議副議長）

DPI（障害者インターナショナル）アジア太平洋事務所や ESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会）での仕事を通してアジアの障害問題と関わってきた。現在は、アジア・ディスアビリティ・インスティテュート（ADI）や DPI 日本会議での活動とおして、障がい者のエンパワメントに関する国内での啓発活動の他に、アジアでの地域に根ざした活動、特に自立生活運動の推進に力を入れるとともに、アフリカにも活動を広げている。



▲①森田 かずよさんによる基調講演の様子。中西さんとともにリモートでの出演となった、②午後から行われたシンポジウム。前半の講演についてファシリテーターの橋本さんが深掘りしていった。会場からも活発な質疑があった。

『いわてパラアスリート発掘・育成事業』がスタートしました！

今年度（令和3年度）より
スタートしました！

自らの可能性にチャレンジ
する機会が広がります！

今回の対象競技は陸上・卓
球です！



◆事業概要について

この事業はパラアスリートの育成を目的としている。今年度より、当協会では岩手県より陸上競技と卓球競技の本事業を受託して実施した。実施形態は2つあって、1つは選手の所属先等に講師を派遣する訪問型（巡回形式）でもう1つは事業企画を当協会が行い、選手に参加募集をする拠点型である。今年度は巡回型研修を21回（陸上14回、卓球7回）、拠点型研修は4回（陸上2回、卓球2回）実施した。参加者は特別支援学校の生徒や卒業生が中心であった。今後はこの事業により、選手や支援者の「競技力向上と競技の継続」という新たなゴール設定につながることを期待したい。



▲①富士大学スポーツセンターでの陸上練習にて元パラリンピアンよりリモート指導を受ける小野寺萌恵選手、②サンアビリティーズ一関での交流大会の様子、③ふれあいランド岩手での卓球練習。

パラスポーツ体験（車いすバスケ&車いすテニス）を開催！

◆期日：令和4年2月11日（金）・令和4年3月21日（月）

◆岩手県勤労身体障がい者体育館（パラリーナ）

◆レポート：岩手県では積極的に障がい者スポーツ用具の購入を進めている。令和2年度にはジュニア用のバスケ用車いす10台とテニス用車いす4台を購入した。障がい者スポーツの種目の中でも特に車いすスポーツは陸上、バスケ、テニス、スキー等、高価な用具が必要となる。個人での購入が難しいため、アスリート発掘育成の重要な時期となるジュニア期でのスポーツ選択肢は極めて少ないのが現状。岩手県は、これらの課題解決やパラアスリートを発掘育成に積極的に取り組んでいる自治体といえる。



さて、前置きが長くなったが、今回はこれらのジュニア用の車いすを活用してバスケとテニスの体験教室を2回に渡り開催した。午前中はバスケで講師はラッセル岩手が務めた。その穂、午後からはテニスを実施。講師は富士大学テニス部監督の内城寛子先生と岩手県テニス協会の内城拓氏の両名にご協力いただいた。初めての体験者が多かったが、スモールステップでのプログラムなど内容を工夫していただき、とても楽しい体験会となった。



▲①車いすテニス教室の講師を務めていただいた内城拓さん（左）と内城寛子さん（右）②③子どもたちも参加して車いすバスケと車いすテニスを体験しました。ラケット操作と車いす操作のリンクは大人でもなかなか大変でした。今後もジュニア用の車いすを活用して今回のように子どもの頃から気軽にスポーツを楽しむ機会を作っていきたいと思っております！

『岡崎建設 Owls バレーボール教室』を開催しました！

◆期日：令和4年2月13日（日）◆会場：オガールアリーナ（紫波町）

◆レポート：岡崎建設 Owls は全国優勝経験もある社会人の強豪クラブであり、参加選手にとっては憧れのチームです。また、バレーボールを通じたまちづくりや積極的な地域貢献の取り組みは団体活動としても見習うべき点が多くあります。

さて、今回も昨年同様クラブチームの選手・スタッフに多数ご参加いただきました。当協会が所管するチームは知的・聴覚・精神の3つがあります。その中から選手やスタッフが10名程度参加しました。まず、最初にウォーミングアップとコーディネーショントレーニングにより心と体をほぐした後、すぐに3チームに分かれてのチーム練習を行いました。良い手本があると選手は別人のようにプレーレベルが上がります。今回もこのような光景をたくさん見ることができました。そして日常に戻るとまたいつもの調子に戻ってしまうのが本当に不思議（笑）。また、クラブチームの選手はプレーだけでなく、指導力がしっかりしているように感じます。各グループにおいて参加選手の技術レベルや理解度に合わせた言葉かけや課題設定など行っていました。チームスタッフにとっても学ぶことが多い時間となりました。今後も合同での練習会等、継続して実施していきたいと思っております。最後になりましたが岡崎建設 Owls の皆さまに心よりお礼申し上げます！



▲①②コーディネーショントレーニングの様子。楽しみながら運動感覚を刺激します。リラックス効果もあり、効果的なウォーミングアップです。③全員で記念撮影。画像は切れていますが、後ろの壁には全国社会人選手権の優勝フラッグが3本掲示されています。

【オンラインでつながる】第4回岩手県ユニバーサル麻雀交流大会

◆期日：令和4年2月20日（日）

◆会場：ふれあいランド岩手（オンライン参加のみ）

◆レポート：当協会では障がいの程度・有無や年齢・性別に関わらず一緒に楽しめるインクルーシブスポーツの推進に取り組んでいる。これまでにポッチャや卓球バレーを活用して様々な事業を展開した。これに加わる強力なツールとしてeスポーツがあると考えます。さて、本事業も年間2回ペースで4回目を数えた。今回より、岩手県精神保健福祉連合会、岩手県難病・疾病団体連絡協議会、日本筋ジストロフィー協会岩手県支部に後援団体に加わっていただいた。オンライン形式のみでの実施となり、選手の姿は見えないが、画面上を通しての熱い戦いが繰り広げられた。さて、結果は優勝はとよいちさん、第2位は山田和馬さん、第3位はkinnoさん（すべてプレイヤー名）であった。



2019年以降の開催！卓球バレーたかたサントリーカップ2022

◆期日：令和4年2月27日（日）◆会場：夢アリーナたかた（陸前高田市総合交流センター）

◆レポート：2019年以降の開催となった。今回は日本卓球バレー連盟東ブロック主催の第1回エリアカップ岩手大会を兼ねて実施した。さて、卓球バレー大会では各チームの競技レベルに合わせて3つの参加クラスを選択できるようにしている。地域大会ではご当地の特色に合わせたクラス名を採用しており、本大会では、競技性の高い方から、ゆめちゃんクラス、一本松クラス、体験クラスとした。今回の参加チームはゆめちゃんクラスが4チーム、一本松クラスが4チームの合計8チームであった。試合は各クラスともに4チームの総当たり戦を行った。地元・栃が沢団地から栃ちゃんA、栃ちゃんBが参加して大会を大いに盛り上げていただいた。この陰には地元で卓球バレーの普及に貢献している総合型リクゼンたかたの存在があります。これを含め多くの方々に支えられ3年ぶりの開催も無事に終了することができた。

閉会式の講評はサントリーの坪松部長からいただいた。震災に関わるお話やこれまでの復興支援活動への想いにグッとときた。そしてこの事業の担当であるサントリーの榎悠里さんが社内異動により今回の参加が最後になるとのこと。榎さんにお世話になった多くの関係者を代表して心よりお礼を申し上げます。素敵な食べっぴりを忘れません！



▲①応援にも熱が入ります。視察にきた北上青年会議所の田鎖さんにも選手として出場いただきました。②審判を務める東さん（左）と間田澤さん（右）。今回は公認2級審判の審査を受検。見事合格しました。③閉会式で大会講評をのべるサントリーの坪松 CSR 推進部長。

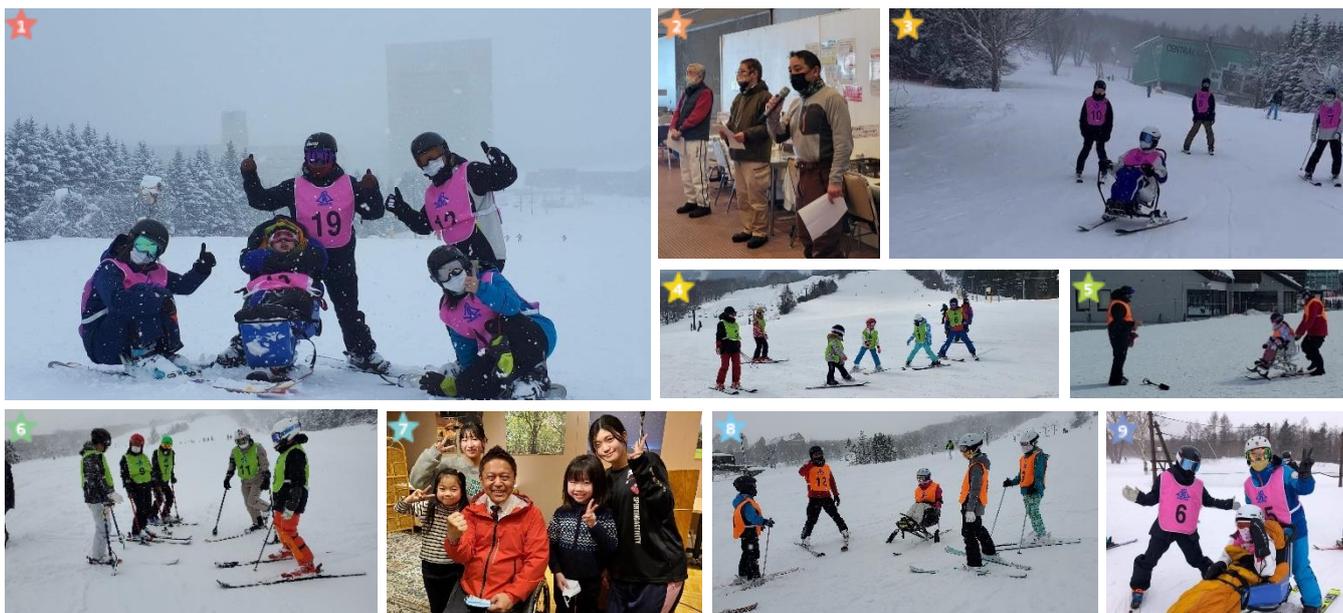
紫波町身障協主催事業 『ボッチャ体験教室』に参加しました！

◆期日：令和4年3月2日（水）◆会場：古館公民館（紫波町）
 ◆レポート：紫波町身体障がい者協会の主催事業に参加してまいりました。前回は卓球バレーを行いました、今回はボッチャでした。東京パラリンピックの効果もあり、会員間での関心度も高いということでした。教室では最初に模擬試合をしながらのルール説明を行い、その後2コートに分かれて3対3での2エンドマッチを行いました。2試合目からはルールもほぼマスターしてしまっていたので、審判もできるだけ各自でするようにしてもらいました。ここまで来るとお互いのボールをみんなで確認しながらチームごとに作戦タイムが始まります。なかなかの盛り上がりで見ている方も楽しくなりました。問題は用具の購入ですが、ここは事務局にがんばってもらいましょう。次回は大会を企画してみたいと思います。参加された皆様ありがとうございました！



障がい者スキー交流会2022を開催！

◆期日：令和4年3月5日（土）～6日（日）◆会場：安比高原スキー場（八幡平市）
 ◆レポート：冬のスポーツといえばスキーである（古い人間にとっては・・・）。しかし冬は寒いし、雪が降るし、車いすでの外出は大変で家にもこもりがちになる方も多くであろう。でも、車いすからスキーに乗り換えてしまえば待っているのは、広大な自然の中で風を切りながらの何とも言えないワクワク感である。しかしながら現実的に見てスキーは障がいのある方々にとって参加ハードルの高い種目である。当協会では、様々な方々と協力しながらこの課題を解消して自然の素晴らしさやアウトドアスポーツの魅力を感じてもらうための取組みを継続的に実施している。さて、今回も2日間でのべ130名ほどの方々に参加いただいた。安全にスキーを楽しむためにはインストラクターは欠かせないが障がい者スキーの場合はスキーの基本技術に加え、特殊用具の使用法や障がいに応じた指導方法が必要になる。そのため全国でも障がい者スキーのインストラクターは少ない。例年、ご協力いただいている（公社）日本プロスキー教師協会（以下、SIAという）では障がい者スキー認定教師制度を設けて環境改善に取り組んでいる。今シーズンは日本財団の助成を受け、大幅に認定教師を増員したとのことである。今後の活躍次第では、各地域のスキー場において障がいのある方々がスキーを楽しむ姿が頻りにみられるかもしれない。是非、そうなってほしいものである。



▲①りんちゃんファミリー。大雪？いえスキー日和です！②初参加のSIA専務理事の杉山公信さん。開会式でごあいさつをいただきました。③新たな武器？スノーカート。自分でコントロールできるのが魅力！④小学生グループレッスン。ボラも小学生を配置！⑤チェアスキーレッスン。バランス感覚とスキー操作を身につけてからリフトへGO！⑥スリートラックレッスン。ゼッケン11は元オリンピック選手の岩谷高峰さんです！⑦当協会の若手？スタッフと横澤高徳さん。イベントの受付嬢として大活躍！⑧東山ファミリーの子供の成長を見るのも楽しみの1つ？⑨北條さんファミリー。講師は元気いっぱい板垣さんです！

厨川幼稚園様より寄付金が贈呈されました

◆期日：令和4年3月8日（火）
 ◆レポート：盛岡大学附属厨川幼稚園ではクリスマスチャリティとして園児やご家族などが中心となり、寄付を募り社会福祉に役立てる取組みをしている。今回の贈呈先を子どもたちに相談したところ、パラスポーツに役立ててほしいという声が上がったとのこと。同日は、副園長の畠山須賀子様から当協会藤井会長に寄付金約4万2千円が寄贈された。子どもたちの気持ちに応えられるよう、今後の活動にしっかり役立てていきたいと思う。



▲畠山副園長（左）と当協会の藤井会長（右）

なお、盛岡大学附属厨川幼稚園と松園幼稚園は3月末で閉園し、4月からは幼保連携認定型こども園『盛岡大学附属幼稚園』となる。厨川幼稚園は1968年（昭和43年）、松園幼稚園は1973年（昭和48年）に開園し、2021年度までに6,993人の子どもを送り出したそうである。これまでの園児教育に対して敬意を表するとともに感謝を申し上げたい。

パラスノースポーツ体験教室（ノルディック）を開催！

◆期日：令和4年3月13日（日）◆会場：田山クロスカントリー（八幡平市）

◆レポート：昨年に引き続き日本障害者スキー連盟が主催する本事業に参加した。本事業は日本財団パラサポセンターの助成により実施されている。当日は昼頃より強い降雪予報があったため、昼休憩なしで午前・午後のプログラムを実施した。講師には本県出身の柴田真聖さん（土屋ホーム）の他、同連盟の次世代育成担当の泉谷さんの他、選手とスタッフにご指導をいただいた。柴田さんは当初は陸上競技に取組み希望郷いわて大会にも出場したが、その後、競技をノルディックスキーに変更し、現在は単身北海道へ移住し競技に取組んでいる。パラリンピック日本代表のかなり近い位置まで来ているようなのでがんばってもらいたい。さて、教室内容である。最初はまずスキーに慣れるためにシットスキー（座位）、立位スキーのそれぞれで基本操作を確認した。この後、予報通り、昼近くになると強めの雪が降ってきた。最後は恒例？の2チームに分かれてのリレー競争で盛り上がった。ノルディックスキーは普段使わない筋肉を刺激や体幹トレーニング効果もある。また、特に雪の多い地方では冬場のトレーニングとして代用できる。当協会としても継続的に取組み、柴田さんに続く選手を育成したい。



▲①座位（シットスキー）の基本練習。指導は柴田選手。②立位スキーの基本練習の様子。③天気予報通り昼からは雪降りとなりました。④柴田くんのお母さんにもご参加いただきました。息子が母に競技指導するほほえましいシーンです。⑤全員で記念撮影！

希望郷いわて大会開催記念 ゲートボール交流大会 in 宮古 を開催しました！

◆期日：令和4年3月15日（火）◆会場：グリーンピア三陸みやこ（宮古市）

◆レポート：例年、使用しているサンビレッジ紫波がコロナワクチン接種会場となっているため、急遽会場を変更して開催した。なお、今回は3名以上（通常は5名以上）であればチーム編成をできる特別ルールを採用した。各チームでは高齢化等の理由により年々参加メンバーが減少しており、参加チーム数減少の理由の1つになっている。これに加えてコロナ禍により活動休止状態のチームもあり、ルールの緩和をはじめ参加のハードルを下げることは必要な考えである。さて、参加チームは12チームとここ数年では1番多い数であった。ルール緩和の効果だろうか。今回は1日開催となるため4コートを使用し、各チーム休憩なしでの試合となった。審判数も限られるため、ほぼセルフ審判での競技となった。運営は、グリーンピアの佐々木浩さんに助言をいただいている。結果は、優勝が「田老ワカメ」、準優勝が「にいさと」と地元のワンツーフイニッシュであった。第3位には「紫波町」が入った。今後も時には1チーム3名ルールを採用して各チームの取組み状況を確認しながら企画したいと思う。



株式会社アウトレジャー様より寄付金が贈呈されました

◆期日：令和4年3月24日（木）

◆レポート：株式会社アウトレジャー（BH レンタリース盛岡）の代表取締役社長 小塚 久司（ひさし）様より寄付金10万円が贈呈されました。今回が2度目の寄付金贈呈となります。お心遣いに感謝を申し上げます。通称「BHさん」は長年に渡り、県障がい者スポーツ大会や障がい者文化芸術祭&音楽祭など県内の福祉関連の事業運営をサポートしていただいております。その他にも、大小関わらず様々なイベントにご協力いただいております。

なお、これまでの屋号は「BH レンタリース盛岡」でしたが、4月より、「Evental（イベントル）」が新屋号になります。これからもお世話になりますが、よろしくお願いいたします！



▲当協会の藤井会長（左）と小塚社長（右）

会員紹介 -Our Partners-



いつもあたたかいご支援をいただきありがとうございます！

(令和4年8月24日現在 敬称略・五十音順)

賛助会員一覧 (団体)

アーク株式会社	株式会社 アイエムアイ	株式会社 アイシーエス	株式会社 IBC 岩手放送
株式会社 アウトレジャー	株式会社 青紀土木	いしどりや眼科	(一社) 岩手県医師会
(一社)岩手県建設業協会	岩手県産 株式会社	岩手県都市ガス協会	(一社)岩手県理学療法士会
岩手スポーツ用品販売 (株)	いわて生活協同組合	岩手電工 株式会社	岩手電力 株式会社
岩手トヨペット 株式会社	株式会社 岩手日報社	岩手雪運 株式会社	岩手リオン補聴器センター
江刺岩手ライオンズクラブ	(株) エヅリコ・エンジニアリング	株式会社 遠忠	岡崎建設 株式会社
株式会社 カガヤ	株式会社 川徳	株式会社 菊地建設	株式会社 北日本銀行
株式会社 久慈設計	小岩金網 株式会社	株式会社 小林精機	株式会社 佐賀組
株式会社 佐武建設	株式会社 佐藤興産	株式会社 佐藤政行種苗	株式会社 志百家
(株) ジャスト・コンサルタント	株式会社 寿広	白金運輸 株式会社	有限会社 新栄観光バス
ゼビオ株式会社ネクススカンパニー	有限会社 タイガースポーツ	株式会社 テレビ岩手	株式会社 中野製麺
株式会社 日盛ハウジング	日本身体障害者団体連合会東北事業所	橋爪商事 株式会社	株式会社 長谷川建設
東野建設工業株式会社	府金製粉 株式会社	株式会社 藤沢体育堂	株式会社 ベルジョイス
みちのくココ・コーラボトリング (株)	株式会社 ミツ星商会	宮城建設 株式会社	株式会社 三八五観光
名鉄観光サービス (株) 盛岡支店	株式会社 明和土木	盛岡商工会議所	株式会社 ヤマイチ
株式会社 やよいデライト	株式会社 ユニバース	株式会社 米澤商事	菱和建設 株式会社

賛助会員一覧 (個人)

白畑 由貴子	菅 里美	藤村 誠	堀川 裕二				
--------	------	------	-------	--	--	--	--

バナー広告掲載中！

賛助会員のバナー広告は無料で掲載しております。現在、以下43団体のバナー広告を掲載中。その他、掲載依頼がありましたら随時、当協会HPにアップいたします。詳細につきましてはお問合せ下さい。

正会員一覧 (団体)

岩手県 ID バスケットボール連盟 / (一社) 岩手県作業療法士会 / (社福) 岩手県視覚障害者福祉協会 / (社福) 岩手県社会福祉協議会 / (社福) 岩手県社会福祉事業団 / (社福) 岩手県身体障害者福祉協会 / 岩手県スポーツウエルネス吹矢協会 / (NPO) 岩手県精神保健福祉連合会 / 岩手県知的障がい者サッカー連盟 / 岩手県知的障害者ソフトボール協会いわてスマイリーズ / 岩手県特別支援学校連絡協議会 / 岩手チエアスキークラブ / 岩手リハビリテーション学院 / (一社) コ・イノベーション研究所 / サークル「ゆうの会」 / (社福) 自立更生会 / 全国脊髄損傷者連合会岩手県支部 / (社福) 手をつなぐ / (株) トラスト保険 / ドルフィンズ岩手 / (株) 畠山冷機工業所 / ラッセル岩手

正会員一覧 (個人)

阿部 史憲 伊藤 昇 井上 勝巳 井上 君之 今宮 正彦 岩淵 典仁 上村 弥 及川 貞之 小江 巧 小原 敏弘 軽石 義則 菊池 幸子 小坂 亜純 佐々木 君夫 佐々木 茂 笹木 正 佐々木 満 佐藤 勝士 佐藤 慎二 佐藤 隆秀 佐藤 佑哉 篠原 政良 白藤 友一 菅原 幸二 高橋 修 中野 正紀 野辺地 省吉 藤井 公博 三浦 拓朗 民部田 誠 横沢 高徳